

令和4年度 相模湖地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和4年11月22日（火）午後7時から午後8時30分まで
- 2 場 所 相模湖総合事務所3階 大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、大川副市長、石原緑区長、榎本市長公室長
杉野こども・若者未来局長、藤井環境経済局長、高橋教育局長
畑緑区副区長
川村市民局長
- 4 出席委員等 19人
- 5 傍聴者 6人
- 6 懇談会の要旨

テーマ1	地域の実情に見合った子育て支援策について（子ども・若もの専門部会）
概要	<p>相模湖地区まちづくり会議では、子ども・若もの専門部会、産業・観光専門部会の2つの専門部会を設置し、課題解決に向けて取り組んでいるが、人口減少が顕著である相模湖地区では、移住・定住を促すために地区内の魅力を高めるとともに若い世代の方々が住み続けられる取り組みが重要である。</p> <p>地域での取組状況を報告するとともに、市と協働して行うことができる取組について懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>これまで行ってきたこと及び今後市とともに進めていきたいことの2点について申し上げる。</p> <p>こどもの学習環境が整うことにより、魅力あるまち、住みやすいまちとなり、子育て世代の移住・定住につながると考えている。そこで、教育委員会と連携し、小中学校の望ましい学習環境のあり方意見交換会を立ち上げた。この意見交換会では、地区の小学校・中学校（計5校）の保護者にアンケート調査を実施し、その結果を分析し、課題の抽出を行っているところである。</p> <p>今後、アンケートから明らかになったことをもとに、市の関係機関とともに、よりよい学習環境の改善を、一步一步進めていきたい。我々は、こうした学習環境の向上が地域への移住・定住にも繋がるものと考え、活動している。</p> <p>移住の促進、特に子育て世帯に住みやすいまちとして選ばれるためには、我々が地域の魅力を一層引き出し、発信していくことは言うまでもないが、安心して子育てができる環境づくりや、子育てに対する市の支援策も重要であり、必要である。</p>
市の取組状況等	<p>全市的に、市の掲げるこどもの遊び場ということでは、こどもセンターや児童館を整備しているが、相模湖地区にはこれらの施設がない。ただ、公民館等は集いの場としてあり、生涯学習施設であるが、こども向けにもこうした施設も活用している。</p> <p>広場は数か所あり、各小学校には全て併設の児童クラブを整備している。児童クラブの状況について、障害をお持ちの支援級の方は6年生まで受け入れているが、それ以外は原則3年生までの受入れである。ただし、モデル的に市内数か所で4年生までを受け入れており、相模湖地区では、平成30年度に桂北小学校、令和3年度に千木良小学校、内郷小学校で4年生までの受入れを開始した。一方、旧市域の状況は、児童数も多く場所の確保等も困難であり、小学校3年生ま</p>

<p>市の取組 状況等</p>	<p>でも待機児童が生じている。</p> <p>今年の児童クラブの利用者数は、桂北児童クラブが14人、うち4年生は1人。千木良児童クラブが11人、うち4年生は1人。内郷児童クラブが27人、うち4年生は6人である。こうした状況も踏まえ、市の計画としてこどもセンターや児童館を新たに設置するというのは財政面からも厳しい。ただし、児童クラブの対象者については、今後広げていく必要があると思っており、相模湖地区等の中山間地域については、6年生までの拡大を先行して実施していきたいと考えている。</p> <p>そのためには、場所と人、職員の知識やノウハウ等も求められるため、今すぐに行うということは難しいが、他地区に先行して計画的に行っていきたい。6年生までの受入れをどのように行っていくか、例えば条例等手続き論は色々あるが、それらをクリアし、なるべく早い時期に、6年生までの受入れを開始したい。</p> <p>他の取組として、学校の施設をこども達の居場所として、自主的に遊べる場として活用する「放課後こども教室」という事業を、市内の4つの小学校で実施している。これは、5時頃まで、ランドセルを学校内に置き、遊びや勉強等の活動をしてから帰るというもので、近隣では根小屋小学校で実施している。ただ、人の手配や学年ごとに下校時間が異なる等の課題があるため、教育委員会と連携しながら、実施に向けて取り組んでいきたい。当然、児童クラブも並行して開所するため、児童クラブを利用する児童は5時以降も学校に残ることができる。</p> <p>こうした取組も含め、こどもの居場所づくりについては、前向きに取り組んでいきたい。</p> <p style="text-align: right;">(杉野こども・若者未来局長)</p>
	<p>相模湖地区には小学校が3校、中学校が2校あるが、すべての学校において、クラス替えができない状況となっている。全市的な傾向だが、平成27年度に、今後の児童・生徒数の推計をしたところ、約30年後に児童生徒数が3割減少する状況であった。今年度5月1日現在の児童生徒数が約5万1,000人であったが、相模湖地区に限らず、市域全体でも、児童生徒数は、減少の傾向にある。</p> <p>これまでの経過だが、先ほど会長からの話にもあった通り、令和2年度に、相模湖地区まちづくり会議子ども・若もの専門部会にお伺いし、教育委員会の考え方について説明するとともに、相模湖地区の小中学校の現状や、市域の他地区での取組事例等を紹介した。また、令和3年度には、望ましい学習環境のあり方意見交換会の設置に伴い、教育委員会がオブザーバーとして参加し、保護者アンケートの実施等について連携して取り組んだ。</p> <p>クラス替えができない状況だと先ほどお話したが、多様な考え方に触れることができないということが、クラス替えができないことのデメリットだと考えている。</p> <p>相模湖地区の学習環境に関する検討組織も設置すると聞いているため、引き続き皆様のご意見を伺いながら、学校規模等も含め、よりよい学習環境のあり方等について検討していきたい。</p> <p style="text-align: right;">(高橋教育局長)</p>

懇談内容	
地区の発言	<p>現在、昨年度実施したアンケート調査の結果から課題を抽出し、検討を行っている。</p> <p>通学に関する課題や、少子化による児童数の減少で、手厚い教育が受けられるというメリットよりも、多様性に触れる機会が少ないことによるデメリットを重く感じる保護者が多いということがわかっている。</p> <p>分析結果は報告書にまとめているが、こうした課題について、地域と市の教育委員会とが一体となって取り組んでいかなければならない問題だと思うが、市としてはこの相模湖地区の小中学校の現状を、どのように考えているか、また今後の小中学校のあり方について、何か具体的な方向性はあるのか。</p>
市の発言	<p>大変難しい質問だが、学校規模が教育環境に与えるものは、メリットもあればデメリットもある。人数が少ないと、きめ細かいフォローや目が届くという強みがあるが、先ほどお話したデメリットもやはりある。考え方としては、デメリットを最小化することを目指していきたい。</p> <p>多様な考え方に触れながら、良好な環境で学習できることが望ましいが、地区の状況等もあるため、きめ細やかに意見交換をさせていただき、ご意見を伺いながら、検討していきたい。</p> <p style="text-align: right;">(高橋教育局長)</p>
	<p>先日アンケートの速報値を拝見したが、今後、小中学校のあり方を検討するにあたり、参考にしたいと思っている。</p> <p>我々の視点としては、市内に20数名の過少規模校から、600～700名の学校までである中で、児童生徒誰ひとり取り残さないという考えで、どの地域に住んでいても、相模原の教育をしっかりと受けられる環境にしていきたい。そのために皆さんと対話をしていきたいし、皆さんの力をお借りしたい。移住・定住を進めていくにあたり、特に子育て世代の皆さんに来ていただくことを期待している。</p> <p>私が市長になってすぐの頃、以前は相模湖や藤野の方が都立の高校へ進学できたが、現在は進学できなくなっているため、再度通えるようにならないかと県の教育委員会と話し、県を通じて東京都へ要望した経過がある。</p> <p>小池都知事との話の中でも都立高校進学について触れたことがあるが、津久井高校含め、進学先の受け皿を確保することが重要である。最終的には山梨、静岡、東京と行き来できる環境というのを目指していきたいと思っており、ぜひ引き続き、皆さんと対話の機会を設けたい。</p> <p style="text-align: right;">(本村市長)</p>
地区の発言	<p>相模湖地区としては子育て世代の方々に住み続けていただきたいと願っている。</p> <p>こどもセンターや児童館等のこどもを安心して預けられる場所がないという現状があり、これらは最小限必要なもの、やっぱり魅力あるまち、住みやすいまちには欠かせないものであると、他市や市内の他地区を見ても感じる。今年の2月に行った個別アンケートでも、回答者の約54%が、「下校後の遊び場所がない」と回答している。放課後こども教室、こどもセンター、児童館の話があったが、それらがどう違うのか、初歩的な質問だが教えて欲しい。</p>

<p>市の発言</p>	<p>児童館はこどもの健全な育成や健康増進を目的にした施設である。こどもセンターは児童館の発展系で、児童館に遊び場的な要素を加えたものである。こどもセンターは旧市時代の計画に基づき設置されており、城山まではあるが、津久井、相模湖、藤野にはない。</p> <p>放課後こども教室は、放課後のこどもの居場所づくりということで、文部科学省が所管している事業である。学校の施設を利用して、指導員の方を配置し、学童と同じように、グラウンド等で遊ぶものである。ランドセルを1回家に置いてから遊びに行くというのが一般的だが、この事業は、ランドセルを背負ったまま学校に残って活動できるのが特徴である。なお、事前に、参加するこどもの登録等、一定の手続きは必要である。</p> <p>それぞれ、こどもの居場所や健全な育成という視点は全く同じだが、児童館とこどもセンターは似ていて、放課後こども教室は放課後のこどもの居場所に特化した事業で、まず、二つに区分していただければよいと思う。</p> <p>(杉野こども・若者未来局長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>今のお話は、こどもの居場所が一番大事だという観点で質問されたと思う。</p> <p>杉野こども・若者未来局長の回答の中で、こどもはランドセルを一度家に置いてから遊びに行くのが普通だという話があったが、相模湖という地域でそれは不可能である。だからこそ、放課後のこどもの遊び場というのが、この地域には、必要である。こうした地域特性も考えて、放課後のこどもの遊び場がいかに必要かということを理解してもらえればありがたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>まず児童クラブについて6年生まで他地区に先行して拡大していきたいということは事業課として考えており、これから庁内調整をしていく。</p> <p>また、同時に放課後こども教室も展開していきたいと考えている。学校で遊ぶ際に、一旦家に帰るのが一般的だが、放課後こども教室であれば帰らずにそのまま遊ぶことができる。そのまま同じ学校の敷地内で、ある程度の時間まではいることができるので、現在、市内の4つの小学校で実施している。それを相模湖地区にも展開していきたい。実施には多少ハードルがあるが、せっかくこうした国の制度があり、市内での実績もあるので、皆様のご理解をいただきながら進めていきたい。</p> <p>(杉野こども・若者未来局長)</p>
<p>市の発言</p>	<p>やはり地域特性は大事だと感じる。緑区から南区まで地域特性に差があり、同じ緑区内ですら地域間で差がある。</p> <p>局長が話したとおり、児童クラブに関しては、6年生までの受入れを、まず中山間地域で実施することについて真剣かつ前向きに検討している。放課後こども教室も将来的に行う必要がある。</p> <p>子育て施策については尖ったものを打ち出していく必要があると感じており、今年度、「母になるなら、流山市。」で有名な、千葉県流山市に視察に行った。流山市は子育て世帯の転入が多く、税収も伸びている。自治体の規模は関係なく、良い施策があれば勉強し、中山間地域の子育て施策に活かしていきたい。</p> <p>ぜひみなさんから、他市の事例でも、新しい事例でも良いので、アイデアを出していただきたい。今日は特に地域特性を痛感したので、しっかり持ち帰り、検討を進めていきたい。</p> <p>(本村市長)</p>

テーマ2	相模湖の観光資源について（産業・観光専門部会）
概要	<p>相模湖地区まちづくり会議では、子ども・若もの専門部会、産業・観光専門部会の2つの専門部会を設置し、課題解決に向けて取り組んでいるが、人口減少が顕著である相模湖地区では、移住・定住を促すために地区内の魅力を高めるとともに若い世代の方々が住み続けられる取り組みが重要である。</p> <p>地域での取組状況を報告するとともに、市と協働して行うことができる取組について懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>令和元年東日本台風で、石老山の登山道が崩落し、顕鏡寺からの登山ができない状況になった。それまで、3年間市民の森の活動として、NPO法人自遊クラブさんとともに、桜道の整備やイベントの開催等を行ったが、それ以降中止してしまった。</p> <p>だが、この2年間、大明神展望台からの新設ルートの整備や景観伐採、Face bookのぶらり相模湖にて相模湖の良さを発信してきた。今年7月によりやく東海自然歩道の登山道が復旧し、石老山の登山客が戻ってきた。石老山のすばらしさを実感しているところだ。</p> <p>土砂災害を経験して、森を知ってもらい、日常的に人が入ることがいかに大切かを痛感した。そのためにも、相模湖公園からのルートや、プレジャーフォレストとの連携といった、ウォーキングイベント等の観光の取組を行っていききたい。市民の森ということで、市と市民と一緒に取り組んでいきたいと思い、今回の懇談で議題として取り上げた。</p> <p>私からは、地域の魅力づくりについて申し上げる。先ほど本村市長のご挨拶の中にもあったが、神奈川県が2024年から2038年まで、相模ダムのリニューアル工事を行うこととなっている。JR中央本線や中央自動車道のインターチェンジがあり、大変利便性の良い環境を生かし、ダムの改修工事が新たな観光の資源となることを期待している。</p> <p>まちづくり会議としても、ダムをキーワードに、地域の特産として「相模ダムカレー」の開発・普及に取り組んでいる。</p> <p>また、小原本陣や小原の郷等、小原地域の魅力づくりを進めるとともに、高尾山から陣馬山へのルートから、相模湖への誘客等について、議論を深めていく。</p> <p>相模湖という地名を知っている方は多いが、なかなか足を運んでももらえないのが実情であるため、相模ダムのリニューアルを活用しながら、市とともにこうした取組を進めていきたい。</p>
市の取組状況等	<p>市民の森は石老山とその周辺を含む一体的なエリアである。平成29年3月に相模原市市民の森基本計画を策定し、その中で、基本方針を市民主体の管理運営と定めている。</p> <p>平成29年度からの3ヵ年を組織体制づくりのソフト整備期間とし、以降、ソフト整備の進行度合を考慮し、段階的なハード整備を進めていく計画となっている。</p> <p>平成29年度から令和元年度までは、市の協働事業提案制度を活用し、相模湖地区まちづくり会議やNPO団体で「相模原市市民の森クラブ」を組織し、様々なプログラムを実施した。提案制度終了にあたり、事業運営について検討したが、台風被害により現地での活動ができないこともあり、団体の継続が困難との判断になった。</p> <p>令和2年度以降については、県による治山工事や、登山道の復旧工事が行われ</p>

<p>市の取組 状況等</p>	<p>てきた。まちづくり会議の方との協働で新たな登山道の整備を行うとともに、大明神展望台周辺の景観伐採、桜道の復旧整備等を行ってきた。改めてご協力に感謝申し上げます。</p> <p>この間、新たな組織体制の構築に向けて、皆さんと調整を図ってきたが、組織の立ち上げには至っていないのが現状である。今後、事業を進めるためには、事業の運営を担う組織や人材が重要である。この発掘を地域の皆さんと行っていきたい。</p> <p>安全安心な環境を整えるため、景観伐採や危険木の撤去等についても、皆さんと対話をしながら、順次進めていく。</p> <p style="text-align: right;">(藤井環境経済局長)</p>
	<p>相模湖は日本で最初にダム湖として作られた、非常に古いダムである。そして、今回の改修工事も、全国的にまれなものである。</p> <p>神奈川県によると、令和6年度から工事が始まり、令和20年までを予定するかなり大規模な工事であるとのこと。こうした工事を見られる機会はなかなかない。これを機に、観光で人を呼び込むのは重要な考えだと思っている。県としても、皆さんに見学してもらえる方法を検討しているとのことだが、市としても、地元の方や県と連携して、この機会を生かし、人を呼び込む取組をしていきたい。</p> <p>地域の方が取り組んでいる「相模ダムカレー」は流木や魚をイメージした珍しいものであり、協力してもらえる企業が増えているという話を聞いている。市としても広報等の支援を行っていく。</p> <p>相模湖の魅力を、いかに多くの人に発信するかも重要である。例えば、広報さがみはらの8月15日号の緑区コーナーにて、「そうだ相模湖へ行こう」という特集をし、高尾山から相模湖まで、小原宿本陣やダム等の名所を通るルートに掲載した。広報紙は以前は区ごとに異なるものだったが、現在は緑区コーナーを中央区や南区の市民も見られるようになっており、市内への情報発信もできたと思う。引き続き皆さんの声を聞きながら相模湖の魅力向上に取り組んでいきたい。</p> <p style="text-align: right;">(石原緑区長)</p>
	<p>高尾山からの誘客について、高尾山は日本遺産にも指定され、世界一登山客が多いと言われる凄い山である。しかし、登山客のほとんどが登山をしてそのまま帰ってしまう。そこからいかにして相模湖側に来てもらうかが重要である。</p> <p>高尾山から小仏城山まで1時間ほど、そこから更に40分ほどで千木良まで下りることができるが、やはり東海自然歩道が非常に重要な位置づけになると考えている。東海自然歩道を大阪まで踏破したい、というファンもおり、そうしたことを踏まえても、魅力をどんどん発信していく必要があると思う。</p> <p>なぜ登山客が高尾へ戻ってしまうかという点、あらゆるところにレストランや温泉等、休憩できる場所が多くあるからである。また、京王線の駅から近く、駐車場も広い。施設的なものの差があると感じているので、千木良に下りた時に、施設がもっとあれば観光客も増えると思うが、今すぐには難しい部分も多いため、それ以外の策を地域の方と対話をし、検討していきたい。</p> <p>観光客の誘客については、八王子市、あきる野市、大月市、都留市と連携し、インバウンドの外国人観光客をターゲットとしたインターネットサイトを設けている。このサイトにて観光スポットやイベント、グルメ等の情報を発信している。</p>

<p>市の取組状況等</p>	<p>令和2年度、相模湖商工会と市の協働事業で、高尾山からの相模湖まで、小仏城山から千木良、相模湖公園へのルートマップを作製した。また、ハイキングコースの案内板も設置した。こうした取組も含め、相模湖への誘致について引き続き皆さんと検討していきたい。</p> <p>釣りや小原本陣、グルメについて、機会を捉えて発信していくことも重要である。市ではメディア戦略に力を入れており、本年度、総合メディア戦略推進課という課を設置した。様々なメディアと情報交換を行い、メディアの方々を呼んで、市内のツアーも行った。相模湖の取組をメディアにも取り上げてもらい、観光客等の関係人口を増やし、最終的に移住してもらえる流れをつくっていききたいと考えている。</p> <p style="text-align: right;">(榎本市長公室長)</p>
-----------------------	--

懇談内容	
<p>地区の発言</p>	<p>地元の自治会長には市民の森計画のパンフレットを配布したが、地元の人でもどこからどこまでが市民の森か分からない人も多い。最近では、南区や中央区の人も協力いただき、市民の森を整備している。7月には東海自然歩道が復旧し、最近では登山客が急増している。市内の方は少ないが、都内から来る人が多い。市からの依頼があれば、駐車場を提供してもよい、という人もいる。</p> <p>登山の道中、顕鏡寺横にトイレがあるが、そこから登って下りてきても当面トイレがない。頂上や大明神展望台のあたりでも、途中でトイレを設けてもらえると観光客もさらに増えるのではないかな。</p> <p>プレジャーフォレストとの連携も更に深めていきたい。駅から石老山に行く場合、バスでプレジャーフォレストを通るので、プレジャーフォレスト内の温泉を利用してから帰る方も多い。こうしたことも踏まえ、更に連携していきたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>市民の森について、東海自然歩道が復旧したので、より積極的な周知をする。南区や中央区から参加してもらうことも重要である。</p> <p>トイレは頂上や大明神への設置計画はあるが、まずは運営団体の整備も行っていきたい。</p> <p style="text-align: right;">(藤井環境経済局長)</p> <p>市民の皆さんに、石老山含め、もっと緑区のことを知ってもらいたいと思う。</p> <p>私は南区に住んでいるが、周りの市民は温泉に行くとなると、箱根に行く。市内にもいやしの湯ややまなみ温泉、プレジャーフォレストの温泉等があるが、意外と知られていない。市民だけで72万人いるので、中央区や南区への周知は効果的であり、より一層市内交流を促したい。</p> <p>各区それぞれの特徴がある中、特に緑区は橋本にリニア中央新幹線神奈川県駅(仮称)ができるが、造って終わりではなく、降りたい駅にしなくてはならない。私は全国的な会議に出る機会が多いが、リニア新駅に関しては、車両基地への引き込み線を旅客化したい話や、駅から車で10分の距離にホテルが見れる場所がある、20分でアユ釣りができる、30分でキャンプができるという話をする。都市と自然のベストミックスの相模原を全国へ発信していく必要がある。</p>

<p>市の発言</p>	<p>トイレは市内の観光トイレの状況を今洗い出している。駅前の観光トイレも市長に就任してすぐ洋式に変えたが、トイレは非常に重要なものであるため、引き続き取り組んでいく。</p> <p>12月3日には、榎本市長公室長と、10人ほどで陣馬山に登る予定があるが、今後石老山にも登りたいと考えている。相模湖には鬼滅の刃で有名になった景信山もある、こうした部分も宣伝していきたい。</p> <p>八王子市の石森市長と会う際も、観光を含め、様々な分野でご協力をお願いする。</p> <p>市内で一番知名度があり、非常に可能性があるのが相模湖地区である。観光や移住・定住、空き家対策等、引き続き取り組んでいきたい。</p> <p style="text-align: right;">(本村市長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>我々は企業庁や市と連携し、毎年7月に環境教育の観点からダム祭を行っている。市内には宮ヶ瀬湖、津久井湖、奥相模湖等のダムがありこれらを周遊できると良いと思うが、こうした構想はあるか。</p>
<p>市の発言</p>	<p>本市には相模湖以外にもダムがあるが、それに山北町の丹沢湖を加え、やまなみ5湖としてPRしている。</p> <p>県と山北町、愛川町、清川村、相模原市の水源地域4市町村、また各自治体の農協、森林組合、商工会、観光協会等で構成する水源地域活性化推進協議会において、各市町村民と連携し、地域の活性化に取り組んでいる。</p> <p>やまなみ5湖について紹介するインターネットサイトの運営の他、パンフレットを作成し、湖の周辺で行われているイベントやレジャー情報、自然の恵みを生かした商品等を紹介している。</p> <p>また、自転車ロードレースが市内で行われた影響もあってか、自転車で湖を周遊する人が増えている。東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、自転車を生かしたサイクルツーリズム等を含め、周辺の自治体や関係団体等と連携を図りながら、水源地域の活性化に取り組んでいきたい。</p> <p>相模湖の中でも、景色がいいところ等、魅力的なスポットが多くあるため、そういった部分で皆さんからも発信をしてもらい、連携した取組も行ってきたい。</p> <p style="text-align: right;">(榎本市長公室長)</p> <p>市内にダムは5箇所あり、神奈川県民の水がめとなっていることから、ダム同士の連携も進めていきたいし、周辺の市町村ともっと連携する必要がある。複数の自治体でこの地域にインバウンドを呼び込むことが重要である。</p> <p>以前、1,000万円をかけてプロモーションビデオを製作したが、その再生回数は物凄く少なかった。それなら外国人Y o u T u b e r に探訪してもらうような柔らかい作品が好まれるのではないかと考えている。こうした取組やダムに関することも含め、観光にもしっかりと力を入れていく。</p> <p>甲州街道を軸に、国と八王子市と上野原市と相模原市で連携できないかという話をここで始める予定である。ぜひその際のアイデアも皆さんから募りたい。</p> <p>ダム改修に関することも、市としての考え方をまとめ、企業庁に対して正式な話をする。</p> <p style="text-align: right;">(本村市長)</p>

<p>市長の感想等</p>	<p>色々な意見を承り、これに対して回答なしではなく、各局にてしっかり検討したいと思う。当然できることとできないことがあり、できないことの方が多いかもしれないが、地域を代表するまちづくり会議委員の皆さんの意見なので、私が国や県に対して動くべきものはしっかりと対応していく。</p> <p>私も含め、市の誰と話がしたい、という場合は、ぜひ地域に呼んでもらいたい。</p> <p>皆さんと対話をして、地域特性をもっと勉強する必要があると感じた。例えば令和元年東日本台風の際も、中央区、南区は比較的被害が少なかったが、同じ相模原でも、中山間地域では8名の方が命を失った。この台風により道路の損壊が500か所、土砂災害250か所と聞くと、びっくりする市民が多いが、私はあえてこの数字を発信している。</p> <p>私たちは誰一人取り残さないという考えのもと、皆さんと対話を続け、顔の見える関係をこれからも続けていきたい。職員が発言したことはすべて市長の言葉と認識してもらいたい。失礼なことがあれば、私から訂正をするので、何か間違いがあればご意見いただきたい。</p> <p>こうして対話を重ね、より良い、選ばれるまちにしていきたい。そのためにも私たち現役世代が、ここで踏ん張って、良いまちづくりをし、子や孫の世代に、相模原市に生まれ育って良かったと思ってもらいたい。中山間地域は、令和元年東日本台風で、鮑子や底沢等の孤立地域が生じてしまった。私も非常に反省しており、現在孤立地域対策に力を入れている。</p> <p>ぜひとも誰一人取り残さない視点で、相模湖地区の皆さんとともに、この地域からわくわくする相模原を発信していきたいので、引き続き、市政へのご理解と、またご提案、ご提言をお願いしたい。</p> <p>相模湖の歴史を後世につなげていくことも大事だと思うので、色々と勉強し、相模湖地区にももっと通いたいと思う。</p> <p>本日は貴重なお時間をいただき、感謝申し上げます。</p>
----------------------	--